

一般財団法人脳神経疾患研究所 令和6年度事業計画

当財団は、「すべては患者さん・利用者さんのために」という理念に基づき、救急医療の体制強化、高度先進医療の推進、予防医学の拡充、介護・福祉と一体となった総合的な医療サービス提供を推進してまいりました。また、令和2年に新型コロナウイルスによるパンデミックが発生し、福島県などの行政から要請を受け長期にわたり感染症の各種対策に全力で取り組んでまいりました。昨年からは2類から5類感染症に移行しましたが、感染対策は現在も続けられています。

昭和56年の南東北脳神経外科病院の開設以来、当財団は43年にわたり着実に伸展を続けてまいりました。その結果、総合南東北病院、南東北福島病院のほか、南東北医療クリニックなど13病院・診療所、ゴールドメディアなど6つの介護老人保健施設を始め、9つの居宅介護支援事業所、7つの訪問看護ステーション、9つの通所リハビリテーションセンターなどを有するまでになりました。各施設では、地域の医療・介護ニーズを的確に把握し、地域の皆さんの暮らしと健康を守るため、安定的かつ円滑に事業運営をしてまいりました。

さらに、新たながん治療を積極的に導入し、南東北がん陽子線治療センター、南東北BNCT研究センター、南東北創薬・サイクロトロン研究センターなどを順次開設してまいりました。今後とも、放射線を活用した高度先進医療の推進など、国内に止まらず世界規模での医学・医療に貢献してまいります。

4年にも及ぶ新型コロナウイルス感染症の蔓延に対応するため、各施設の危機管理体制を拡充すると共に、地域医療・介護の崩壊を防ぐため、各地域の行政と連携して多くの対策に取り組んでまいりました。昨年、2類から5類感染症に移行しましたが感染対策は継続しております。また、イスラエル紛争やロシアのウクライナ侵攻など世界経済悪化の影響による国内の物価上昇など、厳しい社会環境のもと医療・介護分野において、地域の皆さんからの信頼に応えるため、さらなる経営改善により各施設の稼動を上げ、良質な医療・介護サービスを安定して提供してまいります。

社会福祉法人南東北福祉事業団との複合施設として介護老人保健・障がい者支援・回復期リハビリなどを行う「東京リハビリテーションセンター世田谷」は安定稼動に努めてまいりましたが、本年度は世田谷区との連携強化により、さらなる稼動の向上を推進します。陽子線やBNCT、その他の放射線治療・診断においても、今や世界のトップクラスの施設として評価されており、コロナ禍後のインバウンド需要に対応する体制を強化し、一層の稼動足進を図ります。また、「南東北創薬・サイクロトロン研究センター」もBNCTの適応診断や認知症の早期診断などPET研究が進められており、多くの研究成果が期待されています。このように、昨年は、大規模な事業が順調に稼動を上げており、本年度においても、さらなる成果を積み上げてまいります。

本院の建替プロジェクトについては、福島県から取得した約15haの旧福島県農業試験場本場跡地において、協力企業と共に郡山市と協議しながらメディカルヒルズ郡山基本構想に基づき地区計画の策定を進めてまいりました。今後は、地区計画に基づきまちづくりを進めると共に新病院の建設に向け取り組んでまいります。「新興感染症への対応」「高度・広域救急への対応」「災害医療への対応」を中心とした新しい総合病院建設プランの策定と建設のため、各分野の多くの英知を結集し推進してまいります。

このように、当財団を中心に、9法人からなる南東北グループは、職員数8,500人、事業所数100施設を超えるまでになり、青森県、宮城県、福島県、東京都、神奈川県、及び大阪府において、医療・介護・福祉事業を展開しています。令和6年度は、戦争や紛争による世界経済の悪化などを背景とする物価上昇に対応し、新型コロナウイルス感染症対策を継続し、さらに、感染症沈静化後の社会環境を見据えた稼働率向上策を実施することにより、事業の拡充と安定継続を確保してまいります。

これらの遂行のため、以下の項目の達成に努めます。

(基本目標)

- 一 創業からの理念「すべては患者さん、利用者さんのために」を基本に、顧客満足度の向上・ガバナンスの強化など、グループ間の連携・支援体制を拡充・強化し、南東北グループ全体の伸展に資する
- 二 働き方改革など変化する労働環境に対応する業務の合理化・効率化、職員のやりがいを促進する環境整備、職員間・所属間の相互協力体制の強化、医療・介護データ分析の効率化や業務プロセス改善などIT・DX化の推進
- 三 戦争や紛争による世界経済の悪化などを背景とする物価上昇や円安に対応するため、全職員へのコスト意識の徹底、診療材料・医薬品・委託契約等の定期的な見直しとグループ全体・組織的にチェックできる体制の構築（LCO：ローコストオペレーションなどの推進）
- 四 厳しい経営環境の中で本院の建替え費用の財源確保に向けた増収を実現するために、選ばれる病院・施設となる取り組みの強化、トリプル改定に対応した診療報酬・介護報酬加算等に向けた人材育成と組織体制の拡充及び予防医学・健診事業の伸展
- 五 グローバル化の進展する中、SNSを中心にあらゆる媒体・メディアを活用した効果的・効率的な広報活動と推進体制の拡充

(全施設共通目標)

- 1 16ゼロ作戦の推進と進捗管理の徹底
- 2 国の働き方改革の進捗に対応すると共に、職員の健康管理や生産性を高める労働環境等の整備とOJTや各種研修などにより職員の業務能力の向上を促進する
- 3 新型コロナウイルス感染症の恒常化への対応など、各地域行政や南東北グループ間の情報の共有化による食中毒等も含めた各種感染症対策の拡充と徹底
- 4 医療・介護・福祉等、各種法令・基準等のコンプライアンスの強化、医療においては、カルテ記載の徹底・指導體制の拡充（特に、非常勤医師や応援医師への端末

操作等のオリエンテーションと制度改正など適切に対応したマニュアル整備など)

(各施設における重点目標)

I 一般財団法人脳神経疾患研究所は、南東北グループの中心法人としてグループ全体のさらなる伸展に向け連携を強化し、企業体質の強化及び健全性の確保を図るため以下の項目を実行します。

(1)16 ゼロ作戦 (①保険診療・コンプライアンス違反ゼロ、②請求漏れゼロ、③査定請求ゼロ、④請求返戻・返戻未請求・保留未請求ゼロ、⑤未収金ゼロ、⑥時間外勤務ゼロ、⑦無駄ゼロ、⑧感染・食中毒ゼロ、⑨人件費の適正化、⑩苦情ゼロ、⑪救急受入拒否ゼロ、⑫パワハラ・セクハラゼロ、⑬褥そうゼロ、⑭離職ゼロ、⑮虐待ゼロ、⑯個人情報漏えい・紛失ゼロ)を引き続き推進します。特に、恒常化する新型コロナウイルス感染症については感染防止策を徹底するとともに、地域行政等との連携の基に医療・介護サービスの維持・継続に努めます。また、“人件費の適正化”については、業務の効率化や内容の見直し、職員間・所属間の連携・協力体制の強化、IT・DX化による業務改善、意識改革・能力向上のための各種研修など総合的に取り組み、仕事への意欲と能力を高め生産性の向上に繋がります。

(2)本年度から特例措置が撤廃される医師の働き方改革など、労働環境の変化に対応するため労務管理システム等を適切に見直し、健康管理や働きやすい職場環境づくりにより業務効率やモチベーションの向上に努めます

(3)東京リハビリテーションセンター世田谷、南東北創薬・サイクロトロン研究センター、大阪なんばクリニック、新百合ヶ丘総合病院新棟などの大型プロジェクトの稼働の向上を推進するとともに、本院の移転建替計画については、社会・医療環境の変化に対応し、地域のニーズを的確に取り入れ、「新興感染症への対応」「高度・広域救急への対応」「災害医療への対応」を柱とした新しい総合病院の建設に取り組みます

(4)医学の発展に寄与するため、職員の自己研鑽を推奨し、国の科学研究費の活用や民間からの助成等による研究活動を促進するとともに、新薬の開発のための治験などに積極的に協力します

(5)医学の発展に寄与するため、高度先進医療を推進し、人材を育成するとともに、医科大学、公益法人、学会等の研究活動支援のために助成を行います

(6)医学の発展と地域医療に尽くす意思のある将来性のある医学生を支援するため、南東北グループの医療機関で研修・勤務するなど一定要件を満たした学生等に返還免除制度のある奨学金を貸与します

II 総合南東北病院、南東北医療クリニック、南東北眼科クリニックは、以下の項目を実行します。

(1)本院建替等の財源確保に向け、南東北第二病院との連携を強化するなど更なる収益のアップを図り、入院稼働率 100%、外来 1,300 人以上/日（クリニック）、眼科 150 人以上/日、病院 550 人以上/日（本院・救外）、合計 2,000 人/日、手術数 10,000 件以上/年、救急車台数 7,000 台以上/年、新規入院数 1,000 人以上/月により利益を確保し、新病院建替えなどに備えます

(2)国の働き方改革などによる労働環境の変化を的確に捉え、優れた人財を確保・育成するための人事・採用システムや、働きやすく合理的かつ効率的な職場環境を整備するなど、職員のモチベーションを高め、離職ゼロの取り組みを進めます

(3)グローバル化が進む中、新型コロナウイルス感染症の沈静化後において、海外から患者受入を促進するため国際医療体制を整備します

(4)予防医学の重要性を広報・啓発するとともに、PET を含め、質の高い健診の受け入れ体制を拡充し、年間収入 150%を目標とします

Ⅲ 南東北がん陽子線治療センターは、計画的な装置等の維持、修繕を実施し、質の高い医療を提供すると共に、効果的な広報活動などにより、治療患者 550 人/年、経常利益 20%を目指します。

Ⅳ 南東北 BNCT 研究センターは、全国・世界に向け治療実績を積極的に発信・広報し、治療人数 200 人以上/年を目指します。

Ⅴ 南東北創薬・サイクロトロン研究センターは、積極的な情報発信・広報活動により認知度の向上を図ると共に、新たな検査への対応など企業治験等の受託を進めます。

Ⅵ 南東北福島病院は、以下の項目を実行します。

(1)急性期稼働率 90%以上、回復期稼働率 95 %以上、外来 300 人以上/日、救急車 1,000 台以上/年、手術件数 1,000 件以上/年を目指します

(2)本院だけでなく、近隣の医療機関等とも連携・協力体制を構築し、稼働率の向上を実現します

Ⅶ 介護老人保健施設、居宅介護支援事業所、訪問看護ステーション、通所リハビリテーションセンターは、以下の項目を実行します。

(1)入所稼働率 100%、通所稼働率 90%以上を目指します

(2)老健の在宅復帰率を 50%以上にします

(3)経常利益率 10%~25%を達成します

(4)訪問系サービスは、営業の拡大、強化及びサービス向上により登録者及び利用者増を図ります

(5)居宅系事業所は、医療機関等との連携強化により積極的に稼働を上げるとともに、加算取得に努めます

Ⅷ 東京リハビリテーションセンター世田谷は、世田谷区など行政との連携を強化拡充し、地域における優位性を確立・発信し、選ばれる施設として、さらなる稼働向上を推進します。

Ⅸ 南東北こども学園は、経験・年齢などバランスのとれた保育人員体制を築き、幼児教育など保育の質をより高め、保護者からの理解と信頼を得て園児数の増に繋げるとともに、地域貢献のために地域卒の園児を受入れます。